

Macのある学校へ行こう!

「表現」をキーワードに、人文・芸術・デザイン・マンガの4学部を擁する京都精華大学は、共用マシンと個人所有の両方でMac環境を充実させている。大学と学生の双方に恩恵があるという、この方式のメリットはどこにあるのだろうか?

共存

個人所有と共用Macの補完関係

世界初のマンガ学部をはじめ、表現することを基本に置く4学部構成でユニークな教育と人材育成を行っている京都精華大学。過去にも関西圏の私立大学としてパイオニア的存在だった同大学は、プロ指向の学生の期待に応えるために、常に現場に最先端の試みを探り入れながら実践的なカリキュラムを実現してきた。

「自由自治」「国際主義」「凝集教育」「人間形成」という教育理念の実践として、例えば、学園祭にも学校と学生がそれぞれ独立して主催する「天野祭」と「五月祭」があり、公式な校章や校歌も制定されていないという、自主性にあふれた校風を旨としている。構内の建物にも「風光館」「清風館」「黎明館」「自

在館」などの独特な漢字名が付けられており、1997年に開設された総合情報センターは「情報館(中央の写真は同館内のメディアアセンタ)」と呼ばれている。

全学で4700名の学生が在籍する精華大では、以前から一部の学科やコースを除き共用マシンとしてMacを導入していた。しかし、コース内容の充実とともに、共用マシンだけでは個々の学生が十分な利用時間を確保できず、また機材の更新インターバルが数年おきとなつて、最新の環境を維持することが難しいという問題が生じる結果となった。

そこで2006年度に行われた学部の改編と新設の機会を利用し、特にMac利用率の高いデザイン学部ビジュアルデザイン学科においては1人1台のノートMac環境を実現。同年度はPower Book G4の15インチモデル、2007年度はMacBookプロの15インチモデルを採用し、キーリングケース、マウス、増設メモリ、保守サポートなどが付く専用パッケージも用意して、入学時に対象

学生が購入できる体制を整えた。

現在は、情報館、ビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科などに共有マシンとしてPower Mac G5、やMacプロなどが約200台設置され、そのほかにも各コースに20台前後のMacが導入されている。また、ビジュアルデザイン学科所属の1、2年生約80名がノート型のMacを個人所有している。

共用と個人所有の2本立てとしたことは、学生と大学の双方にメリットをもたらした。まず、学生にとっては、必要な時にいつでもMacを利用できる環境が得られ、短期間でマシンに慣れることができる。

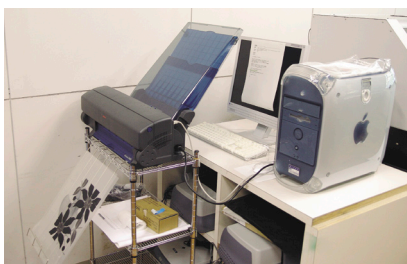
また、大学側はマシン管理の負担が減って設備の増強の手間も少なくなり、そこから生まれた余裕を共用マシンに振り向けることで、より高性能なデスクトップ型Macを導入できるようになった。両者の組み合わせによる機能の補完状況には、管理者や教員も満足しているという。



緩やかな丘陵に広がるキャンパスを案内していただきながら、Macの導入状況やメリットについてうかがった情報管理課長の海辺舜氏(左)と広報課の出口尚宏氏(右)。



作業室で個人所有のPowerBook G4などを利用する学生も多い。資料や課題は共有フォルダからインターネット経由で取り出し、作品データのやりとりはUSBメモリや外付けハードディスクを活用しているという。



一般にはあまり目にする機会のない、シルクスクリーン製版が可能なきもと製の「Kimosetter」。Power Mac G4からプリンタ感覚で利用でき、手軽にシルク印刷用の版が作成できる。



共用Macを導入している教室の例。グラフィックデザイン系の教室に設置されたiMacのほか、情報館やプロダクトデザイン学科を中心にPower Mac G5やMacプロも導入されている。

芸術・デザイン・マンガ 先端教育を

文●大谷和利 取材協力●三谷商事株式会社



1968年に短期大学として開校し、1979年に4年制へと移行した京都精華大学。風光明媚な洛北の地にキャンパスを構え、4700名の学生が新しい「表現」に取り組んでいる。





支える Mac in 京都精華大学

利点

習熟も 速い Mac環境

ビジュアルデザイン学科のグラフィックデザインコースで利用している主要ソフトは、アドビシステムズのアドビCS2とStudio 8だ。この夏には、インテルMacにネイティブ対応したアドビCS3のテストも行われ、来



デザイン学部ビジュアルデザイン学科の高橋トオル氏「学生はMacに慣れるのが早く、アジアからの留学生が多い大学ではMac OS Xの多国語対応も有効な語。」

年度以降はこちらに移行していく見込みだ。また、プロダクトデザイン学科では、シェードやベクターワークスといった3DCGソフトも利用されている。

一方で、同じビジュアルデザイン学科でも、デジタルクリエイションコースやマンガ学部のアニメーションコースでは、利用ソフトの関係でウィンドウズPCも使われている。ポートキャンなどでのウィンドウズ利用は、現時点では大学として公式に導入することは控え、正式版となるレパードのリリースを待って検証を行う予定とのことだった。

ただし、プロダクトデザイン学科に導入されている、ローランド製の3Dプリンタ「MDX140」（樹脂などの素材を削り、3Dデータおりの立体物を作る装置）のコントロールには、ウィンドウズ用のCADソフト「ライノセラ」をパラレルズで動かすなど、インテル化されたことで、Macの利用シーンは確実に広がっている印象だ。

ビジュアルデザイン学科を担

当する高橋トオル氏は、Macを導入する理由を次のように話す。「ひとつには、Macで育った教員が多いこともありですが、やはりクリエイティブワークの現場ではMacが標準環境であるという点が大きいです。何より操作が直感的ですし、ポストスクリプトとともに発展してきたマシンなので、ビジュアルデザインのクリエイターとの相性が良いのです。また、事務所などに置いたときのインテリア性の高さも重要です。今のところ、ウィンドウズに乗り替える気はまったくありません」

実際、入学してくる学生は、高校でウィンドウズ環境を使っていたというケースが多いのだが、Macにはすぐに慣れることができ、プラットフォームを変えることによるストレスはほとんどないという。さらに、ユニコードを採用したMac OS Xのおかげで、アジア圏の言語をカバーしやすいため、近隣諸国からの留学生も多い京都精華大にとっては、言語環境のサポートという面でも有利に働いている。

課題

無線LANの 増強が 不可欠

京都精華大学では、全学規模のサーバをインターネット接続用とメール用に留め、データ管理用サーバは教室レベルで設置している。これは、各学部・学科で必要とされる容量や負荷がまったく異なるためだ。同様に、ネットプリントに関しても適材適所で利用されており、共通環境が重要となる学科の共用マシンなどに導入されている。ただし、大規模なRAIDストレージなどは利用しておらず、個人的なデータは個々の学生が自己管理する方式を採用した。

ネットワークへは、イーサネットによる有線接続のほか、各コース、教室ごとに無線LANのベ이스ステーションが設置されており、持ち込んだノートPCでネットワークに接続することも可能だ。一般的に大学における個人所有のコンピュータの問題点として

は、設定がマシンごとに固有のものとなるため、共通の課題を処理しようとしたときに支障が出たり、勝手にインストールされた拡張機能によってシステムが不安定になることなどが考えられる。

しかし、精華大は、Mac OS Xサーバとの連携でネットプリントを活用し、プライベートではそれぞれの設定で作業してもらう一方、学内や授業では、共用マシンだけでなく個人所有のMacも必要に応じてサーバ上の共通システムから起動し、環境を統一して利用する計画を立てている。

このシステムは、現時点では実験はさせていないものの、テスト運用を通じてほぼ問題なく動かせる状態に達している。ところが、今後、MacBook Proを採用するコースや学年が増えていくと、500台規模のマシンを無線LANでサポートする必要があるため、本格稼働させるには、それだけの機材をスムーズにワイヤレス接続できる環境の整備が求められる。京都精華大学は、それをこれから1、2年の課題と捉え、ネットワークシステムのさらなる充実に取り組むとのことだった。



大学全体ではWEBサーバとメールサーバのみをシンプルに集中管理し、そのほかは教室レベルでサーバを設けて負荷を分散している。ただしIDとパスワードは共通で利用可能となっている。



教員の要望から設置されたという、Macからワイヤレスで画像転送できるエプソン製の無線LAN対応ビデオプロジェクト「EMP-7950」。ビデオケーブルの接続が不要なので、プレゼン機器設置の自由度も高い。